

恵泉果物の文化史（1）

ブルーベリー

小林 幹夫(園芸短期大学)

1. ブルーベリーとは

ブルーベリーは、ツツジ科スノキ属に分類される北アメリカ原産の落葉性または常緑性の低木または半低木性植物である。ブルーベリーと称される野生植物は6種に大別される。北部東岸とカナダに多く自生するロウブッシュブルーベリー、ハイブッシュブルーベリー、北部西岸を中心に自生するエバーグリーンブルーベリー、マウンテンブルーベリー、南部のジョージア、フロリダ州を中心に自生するラビットアイブルーベリー、南部東岸に自生するドライランドブルーベリーなどである。これらのうち果樹園芸上および食品産業上重要なものは栽培ブルーベリーといわれるハイブッシュブルーベリー（図17）とラビットアイブルーベリー、野生種のロウブッシュブルーベリーの3つである。エバーグリーンブルーベリーは、果実よりも花芽の着いた枝が主に観賞用として利用されている。

ヨーロッパでも、野生ブルーベリーの果実を利用している国は多く、各国固有の名前がつけられている。フランスではミルティーユ、ポーランドではビルベリー、ボグベリーなどである。



図17 ハイブッシュブルーベリーの果実

日本に自生するスノキ属の植物は 16 種あるが、古くから生食され果実酒として利用されてきたのは主にシャシャンボとクロマメノキである。特にクロマメノキは長野県の軽井沢近辺では 1950 年代半ばより特産品として生果、ジャム、パイとして利用され、浅間ブドウ、浅間ベリーの名で親しまれている。

2. ブルーベリーは祖先の恩人

「ブルーベリーが祖先の命を救った」といわれるほど、ブルーベリーはアメリカ人にとって歴史的な果実である。ヨーロッパからの初期の移住者がアメリカ北東部の厳しい冬の寒さと飢えを乗り越えられたのは、原住民から分けもらったブルーベリーの乾燥果実やシロップのおかげだったといわれる。

北アメリカの野生のブルーベリー(主にロウブッシュブルーベリーとハイブッシュブルーベリー)は古くから原住民によって採取・利用されていた。果実の採取は自由であり、1880 年代の中ごろまでは土地の所有権にかかわりなく誰でも摘み取ることができ、多くの移民家族にとっても楽しみの一つであった。しかし、南北戦争(1861-1865)の始まりとともに野生の果実が軍に供給されるようになり、さらに缶詰が作られるようになってからは事情が一変した。それは、果実の価値が高まり、商品として売買の対象になったためである。土地所有者はそれまで開放していた土地から採集者を締め出し、一定の管理を行うようになった。それ以降、野生果実の収穫量は多くなり、市場でのブルーベリー果実の売買が一般的になった。

3. 果実の利用

アメリカにおいて、ブルーベリーの果実は生食用として青果で出荷されるとともに、香りを失わない状態で、缶詰、冷凍、その他凍結乾燥などにされ、ブルーベリーマフィン、パイ、チーズケーキ、など菓子原料やヨーグルト、ジャムなどに加工されている。生食用の主な用途はアイスクリーム、フルーツサラダなどに利用される。

ヨーロッパにおいても、アメリカ同様にブルーベリー(ミルティーユなど)の利用は食生活によくマッチしており、毎日の食事になくてはならないもの

として定着している。

4. 栽培と品種改良はアメリカから

需要の拡大に伴って、アメリカでは野生種の栽培化が各地で試みられた。ハイブッシュブルーベリーは1860年代に、ラビットアイブルーベリーは1880年代にはじめられたが、ほとんど成功しなかった。農務省が1862年に設置され、1900年代入るとハイブッシュブルーベリーの野生種から優良個体の選抜が始まり、それらの交配育種により、園芸作物として固定した品種が作出された。その後ラビットアイブルーベリーの野生種についても改良が行なわれ、園芸品種が多く作り出されている。

ヨーロッパでは、従来は野生種の利用が主であったが、最近では日本と同様にアメリカからの園芸品種の導入による栽培が徐々に広まっている。

5. 日本への導入

日本へのアメリカの園芸品種導入は第二次世界大戦後まもなくの1951年であった。時代的な背景もあつてか栽培普及は遅れ、経済栽培に取り入れられたのは1970年代の半ば以降である。その後消費者の自然指向や健康を維持するための機能性食品としての需要が増大してきたため、各地域の特産果樹としての生産が定着を始めている。

参考文献

岩垣駛夫・石川駿二. ブルーベリーの栽培. 誠文堂新光社. 1984.

石川駿二・小池洋男. ブルーベリーの作り方. 農山漁村文化協会. 1985.

日本ブルーベリー協会. ブルーベリー. 栽培から加工まで. 創森社. 1997.

日本果実生産出荷安定基金協会. 特産果樹情報提供事業報告書(ブルーベリー). 2001.

Gough, R. E., Barclay Poling. E, Small fruits in the home garden. Food product press. 1996.

Otto, S. The backyard berry book. Ottographics. 1994.